

# 地域おこし 協力隊通信



今月の担当  
市川 聡明

現在、私が活動している「地域おこし協力隊」(以下、協力隊と記す)。テレビや新聞等で協力隊について見たり聞いたりしたことがある方も多いと思いますが、今回はこの協力隊についてお話ししたいと思います。

協力隊は昨今、声高に叫ばれている地方創生の一貫として生まれた制度です。都市部から地方へ移り住んだ協力隊員は最長3年間、地域協力活動をおこないながらその地域への定住・定着を図り、最終的にはその地で仕事を創り、都会から地方へ人の流れを作るといったのがその目的です。

実施主体は各自治体ですが、協力隊員の賃金や活動経費、募集経費は国から特別交付税による支援があり、自治体は国のお金を使って協力隊の活動を実施することができるという訳です。

ただし、必ずしも制度がうまく機能しているとは限らないようです。国の補助金を使えるのをいいことに、何のビジョンも持たずに協力隊員を採用し、雑用係のように使っている自治体や、単に田舎暮らしがしたくて興味本位で

応募し、好き勝手やっている協力隊員など、全国での醜聞もちらほら聞こえてきます。

協力隊員が来れば何でも解決してくれるものと勘違いしている地域、自治体もあるようですが、地域おこしの主役はあくまでも地域の住民であり自治体です。協力隊員の熱意や行動力を引き出す下地を作るとともに、協力隊員自身も自分の経験や能力が地域でどのように活かすことができるのかを真剣に考えることが肝要です。何を指すのかわからないまま任期が終了するという空しい結果に終わらせない努力が、自治体、地域、協力隊員それぞれに求められています。

本稿が三種町における協力隊のあり方について、町民のみなさんに考えていただく一助となれば幸いです。私自身もあらためて協力隊員としての役割と責任を見つめ直したいと思います。



三種町PRイベントの開催  
(H28.12.11東京都北千住)

## こころ通信



こころちゃん

みんなで考える  
心の健康づくり

くささやかな気配り・少しの親切とお節介々

## ゲートキーパー研修会が 開催されました

1月10日、三種町保健センターで山本地区の男性を対象に、ゲートキーパー研修会が行われました。この研修会は傾聴ボランティアアグリプ「チーム山本」が開催したものです。

研修では秋田大大学院准教授の佐々木久長先生にお越しいただき、ゲートキーパーについての理解を深めました。

研修には47名が参加し、佐々木先生の「普段から周りの人とコミュニケーションをとり、相手の変化に気づきましょう。」という言葉にうなずきながら熱心に話を聞いていました。参加者からは、

「周囲の変化に気づき声をかけ、相談窓口へつなぐ役割を担うゲートキーパーはとても大切な存在であることを学びました。」

と感想が多く聞かれました。お昼には、チーム山本のみなさんの手料理を囲み、おいしいお昼ごはんをいただきました。また、歌や踊りの披露もあり、楽しい時間を過ごしました。



47名が参加しました。



佐々木久長先生



歌や踊りで楽しい時間を過ごしました。